

だれでも気兼ねなく 「おでかけ」できる、 したくなる社会を目指して ～超高齢化ニッポンを楽しく生きるために～

地域公共交通プロデューサー
名古屋大学大学院環境学研究科教授
国土交通省交通政策審議会委員
内閣府地方分権改革推進有識者会議地域交通部会構成員
加藤 博和

「使いやすく
それゆえに多くの方に乗り合って
『おでかけ』していただける
くらしの足づくり」は
超高齢化する今後の日本が生き残って
いくためにとても重要なもの
それを何とかしようとする人たちは重
要なミッションを背負っている
その尊い行動を後押しできるように、私
は細腕ですが戦い続けます！

「地域公共交通」とは？

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律

(2007施行、2014大きな改正、2020改正見込み)

- 地域公共交通(2条1)
地域住民の日常生活若しくは社会生活における移動又は
観光旅客その他の当該地域を来訪する者の移動のための
交通手段として利用される公共交通機関をいう。
- 公共交通事業者(2条2)
 - イ 鉄道事業法による鉄道事業者
 - ロ 軌道法による軌道経営者
 - ハ 道路運送法による一般乗合旅客自動車運送事業者
及び一般乗用旅客自動車運送事業者
 - ニ (略)
 - ホ 海上運送法による一般旅客定期航路事業等を営む者
 - ヘ (略)

自家用有償運送なども、事業ではないが地域公共交通

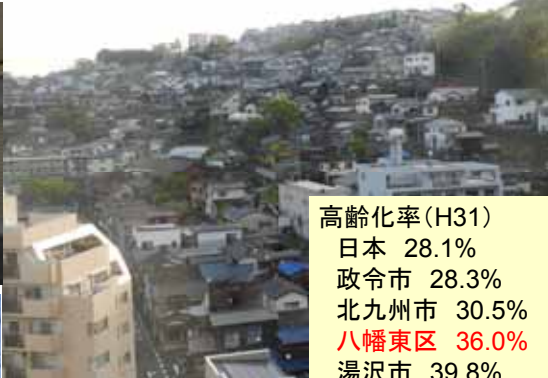
地域公共交通プロデューサーとして

- 「利便性が高く費用の安い公共交通実現」を「現場で」目指す-

旧弊な公共交通をいかに革新するか



北九州市八幡東区枝光



高齢化率(H31)
 日本 28.1%
 政令市 28.3%
 北九州市 30.5%
八幡東区 36.0%
 湯沢市 39.8%



- 谷底に商店街、急斜面に住宅地
- クルマが使えない環境(車庫なし、道路狭隘)
- 新日鉄が撤退。跡地に大規模商業施設
- 急速な高齢化
- このままでは商店街も住宅地も衰退

名古屋大学 加藤博和 19/10/11

「枝光やまさか乗合タクシー」

(北九州市「**おでかけ交通**」の発祥、八幡東区、2000年10月31日運行開始、運行主体:光タクシー)



名古屋大学 加藤博和 19/10/11

- タクシー事業者が地域に運行を提案し、市も協力 → **「三位一体」**
- **地域:** 運営委員会を組織し、運行形態検討、利用促進、協力金負担
- **事業者:** 運行計画立案、コスト削減、サービス改善
- **市:** 住民と事業者との調整、運行への助言・支援(立候補方式)
- 乗合タクシー(運賃当初100円、現在は200円)による高頻度・地元密着型運行で住民の支持を得る
- 商店街は中心部にバス待合所を擁し、**すぐ隣の大規模ショッピングモールに負けず賑わいを保つ(北九州で屈指)**
- **クルマに頼らずいつまでも住んでいけるまちへ!**

枝光に住むなら、枝光やまさか乗合ジャンボタクシーと『えだみつノリノリバス』がお得です。

枝光には、行きたいところがあるに
 でも、最近車の運転がちょっと不安
 2週1回は出掛けます!
 行きたり、帰ったり、駅から、夕方まで、乗り放題
 早くも、遅くも、枝光の北から南まで、乗り放題
 くわしくはウラ書で

現金(運賃200円)で月に
 ●回数券(1枚307円)で月に21回以上利用
 ●回数券を月に1冊(5枚18枚3,000円)⇒4,500円で1ヶ月乗り放題に!

2018年：全線乗り放題定期券
2019年：西鉄バスとの乗継環境整備

「枝光やまさか乗合ジャンボタクシー」

- 枝光地域を、5ルート運行中!
- 日時〜18時まで(日62便)
- 年間約300日運行!(白昼時)
- 各ルート 1週15分〜20分程度



今年で15周年を迎え、最善地区の定として、みなさんにご利用いただいています。新車、ニュース、季節セット経済情報など、多くのメディアに取り上げられています!

「北九州市交通安全対策推進協議会」について
 この定期券は、基金によって、みなさんに提供しております。基金は、平成23年10月に、第一交通事業の設立助成金から北九州へ寄付されたものです。基金をもとに、交通安全対策の一助として、おでかけ交通の利用促進を図るものです。

八幡東区役所
 10月1日
 「枝光やまさか乗合ジャンボタクシー」が、より一層便利になりました!
 八幡東区の枝光地区一帯を運行している「枝光やまさか乗合ジャンボタクシー」(運行事業者: (株) 光タクシー)では、7月1日から路線を一部延伸することで、幹線道路を走る西鉄バスと同じ(西鉄「枝光本町バス停(中野町側)」で乗り継ぎが出来る)取り組みを開始しました。
 これにより、中央街や東山、戸畑方面への移動が容易になり、通勤、通学、通院、買物等、多様な目的での移動が便利になりました。例えば西鉄バスに乗り継ぎをするために離れたバス停まで歩いて移動しなくてはならなかったのが、公共交通としての(リア)が取り扱われ、より一層シームレスな移動が実現できることを期待し、私たち市民もマイカーから地球環境に優しい公共交通の利用へシフトして行きましょう。

名古屋大学 加藤博和 19/10/11

交通と福祉は「没交渉」

- 地域共生社会、大いにけっこうです。我々地域公共交通をよくすることに取り組む者もそれを目指しています
- そして、昨日何度も出てきたキーワード「つながり」「まちづくり」を考えるなら、交通は基本中の基本です
- なのになぜ完全に無視されているのか?
 - 国交省や公共交通事業者が面倒くさいから?
 - クルマがあればいいから?
 - 難しくややこしくて下手に手を出したらやけどするから?

はっきり言って、アウトオブ論外! → だからいまここに私はいる?

名古屋大学 加藤博和 19/10/11

(クルマがなくても)「おでかけ」できること それが、地域公共交通の「一番の」存在意義

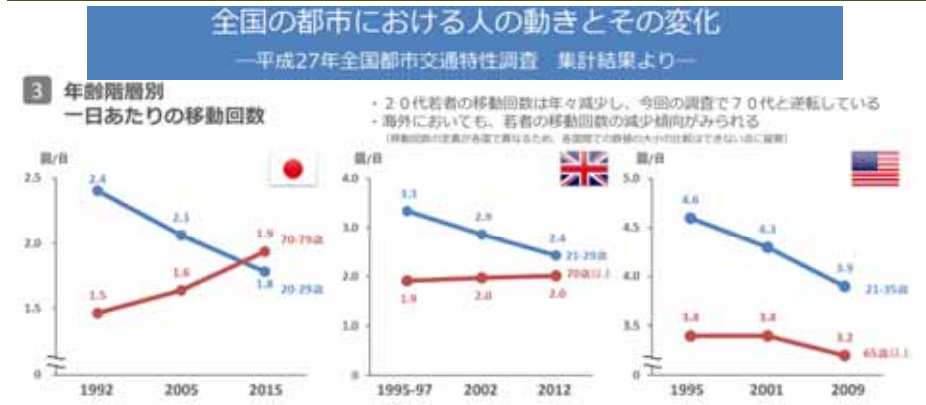
- クルマがあれば地域公共交通はいらない?
- クルマを運転できなくても、だれかに乗せてもらえればいい?
- モノが来てくれればいい?(通販、移動販売車など)
- ITを使えばいい?(SOHO、テレビ会議、チャットなど)

「おでかけ」しなくても済むのはいいけど、
「おでかけ」が自由にできないというのは健全か?
「いざというとき使える」「つながっている」という安心

「おでかけ」しやすくすることは、
生活を、そしてリアル地域を「いきいきわくわく」にするための方法の1つ
やるなら「乗って楽しい」「降りても楽しい」を目指す必要

- 乗って楽しい: 交通手段自体に魅力がある「乗る気になるか?」
 - 降りても楽しい: 必要なところや行きたいところに行ける「どこに行きたいか?」
- 「おでかけ」を提供することで、地域のQOL(Quality Of Life)を
高め、安心安全を守り豊かさを増進させてこそ存在し続けられる

「おでかけ」を増やす高齢者、減らす若者

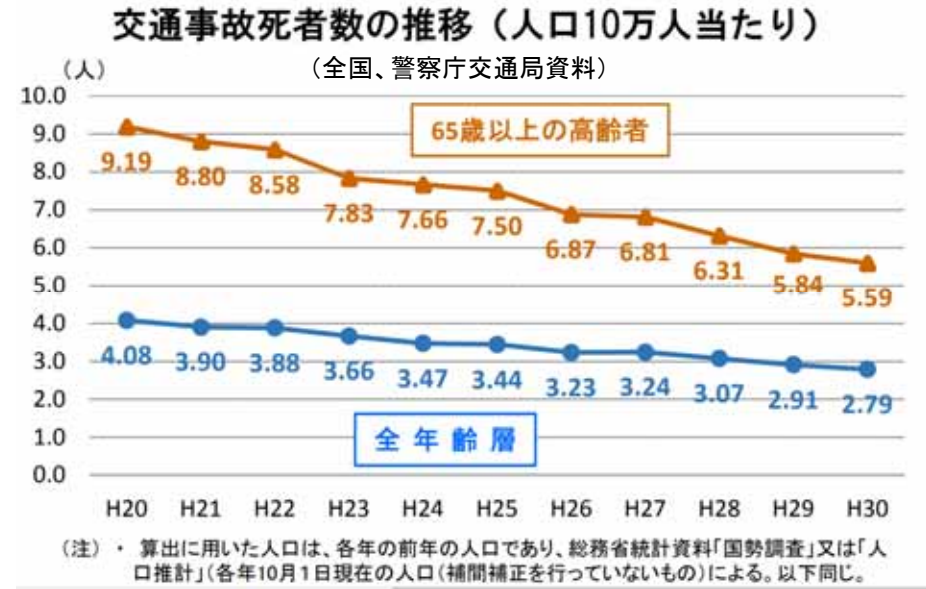
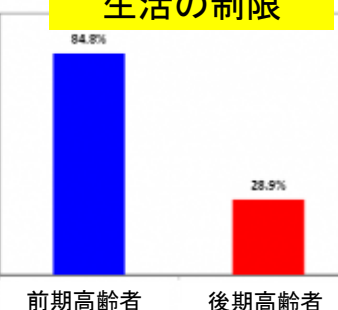
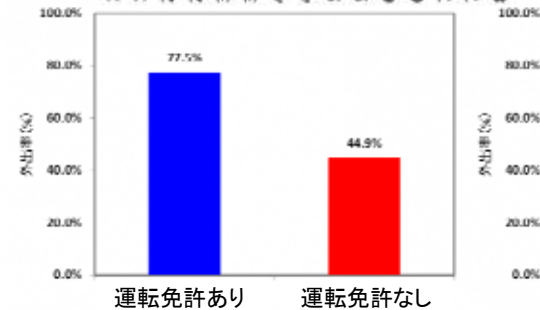


- 若者: 外出しなくても安価でいろんなものが得られる
→ どうやって外に引っ張り出すか?
- 高齢者: 外出したいけど運転は怖いし公共交通は不便で使えない
→ どうやって安全・安心に動いてもらうか?



群馬県: 前橋・高崎都市圏と両毛都市圏での平成27年度調査の結果

免許返納 = 生活の制限



私見卓見

OPINION

「自動車がないと移動ができず生活が成り立たない」。大都市部などを除く日本のこの現状を変えることが、超高齢社会を乗り越えるために不可避であると考えている。

高齢者の運転で起きた悲惨な事故が報道され、「不安なので運転をやめたいが、その後の生活を考えるとできない」という高齢者が多くいる。一方、はたから見るとんでもない運転をしているのに「運転には自信がある」と勘違いしている高齢者も多々いる。

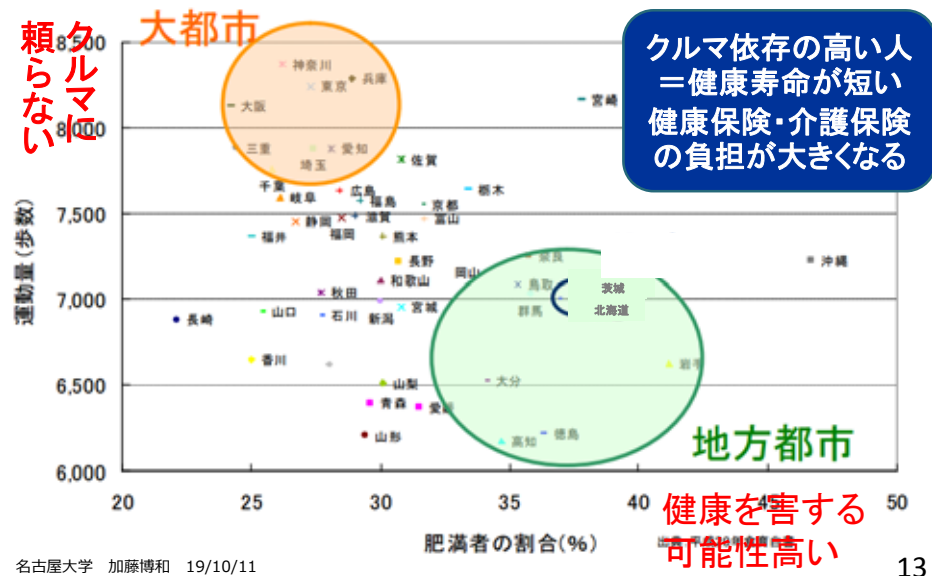
こういふ方々に運転を控えていただけよう、自動車を使わずとも生活が不自由にならない社会にしていくことが

名古屋大学大学院教授
(公共交通政策) 加藤博和

「卒車」できる社会へ

現状では、大都市部以外はムリ

田舎ほど運動せず不健康・・・クルマ依存だから



「いまは公共交通に乗らないけど、将来クルマが運転できなくなったら利用したい」と思いますか？

結論：ありえない！

- まだ元気な今でさえ、公共交通よりクルマの方が楽で便利で使いやすいから使っている
 - クルマはカーナビ・オートマ・パワステ・衝突軽減ブレーキで半自動
 - 公共交通は調べないと乗りこなせないし、けっこう歩かないといけない
 - そんな方が、クルマが運転できなくなった時に、公共交通を利用できるのか？
 - バス停まで歩けるか？ ダイヤを調べられるか？ 電話予約できるか？
- クルマが運転できなくなった時に公共交通が利用できるはずがない。つまり、その時が自由に外出できなくなる時
- 公共交通を使う人は、クルマを使う人より元気！
 - クルマに乗れるうちに公共交通も乗るようにしておくことが必要
 - この対象となる人たちにどう訴求するか？



紀勢交通、今月末でタクシー廃業 紀北町内唯一の事業者

2016.12.20 8:00 中日新聞

JR紀伊長島駅前で客待ちする紀勢交通のタクシー 紀北町通(東長島)が廃業を決め、十二月末で姿を消す。人口、飲続けることができなくな... [記事全文]

タクシーは知らないうちになくなる 全国の地方部でどんどんタクシーは廃業している

飛驒市

〒509-4292 岐阜県飛驒市古川町本町2番22号 電話: 0577-73-2111 FAX: 0577-73-6373

総合案内 | 市民の方へ | 事業者の方へ | 観光情報 | 緊急

高齢化率(H31)
 日本 28.1%
 飛驒市 38.8%
 河合地区 41.2%
 宮川地区 45.0%

飛驒市ウェブサイトへようこそ > お知らせ > デマンド式ポニーカー廃止に伴う代替手段について

デマンド式ポニーカー廃止に伴う代替手段について

平成15年11月から北飛驒商工会が運営主体となり運行してきました『デマンド式ポニーカー』が、運転手不足及び同会の組織経営の改善のため平成30年3月31日をもって廃止となります。

市では、その補完手段として平成27年10月から導入してきました『ひだまる（河合・宮川乗合タクシー）』に全面的に切り替え、河合町・宮川町両地域の方の通院、買い物、通学を支えています。

ご利用にあたっては、下記及び「河合・宮川乗合タクシーご利用の流れ」をご確認くださいませようお願い申し上げます。

**人口減少・超高齢化で日本の最先端を行く地域では
ボランティア運転手による移動手段確保が
10年程度しか維持できないことが判明**

今のやり方では今後、 日本の「おでかけ網」は穴だらけになる

- 人口減少・超高齢化 → 需要は増えても担い手減少はそれを上回る(運転業務の有効求人倍率は全業種の中でも最悪)
- 地域組織・NPOによるボトムアップは大事だが、それだけだと一部しかカバーできず、世代交代も難しい
- 「お金の流れ」「安全確保」をきちんとやらないと持続できない
- ITや自動運転は現在の70代以上にはほとんど恩恵を与えない

みんな勝手なことばかり言っていたのが 負のスパイラルを止められなかった原因

- 利用者 「不便だし、何か言っても変わらないし・・・」
 - 事業者 「利用が少なくて経営できないし、便利にしても乗ってくれるわけではない・・・」
- それぞれが勝手バラバラなことを考えているだけでは、どんどん状況は悪くなるばかり
- 互いがコミュニケーションして取り組むことができれば、いい方向に転換できるのでは？

**解決策1: ITによるコミュニケーション
解決策2: 地域コミュニティ**

安直な（オン）デマンド交通導入は 公共交通政策を退化させる

- 公共交通空白地域をなくしたい？ 歩くのがおっくうな高齢者に対応したい？
- 空バスやムダな迂回がなくなり、経費効率化？
- 需要に応じて走るのだから、サービスレベルが向上？
 - デマンド交通を導入すると、利用が少なくても経費が減るので、改善する気がなくなる。つまり、政策検討が停止する
 - 本当にその地域には、定時定路線にまとまるほどのニーズがないと確認したか？ そういうニーズをつくり出す努力をしたか？
 - 逆に一般タクシーでできないことがないか検討したか？ (実は多くの場合、タクシー事業の枠組で同じサービスが可能、つまり「安いタクシー」)

- いろいろ利用できると言っているが、提案がないことの裏返し(いままで使っていない人には訴求しない)
- オンデマンドと言いながら供給側の都合でルールを決めている(エリア、営業時間、予約方法、予約締切、会員制など)
- そもそも、都市・地域の構造が発散系(コンパクトとは対極)



瀬戸市菱野団地 住民バス

(菱野団地コミュニティ交通
運行協議会、2018年8月6日
運行開始)



短距離移動を気軽にできる
方法が高齢化社会では必要

運行スキームは検討の末
住民協議会による無償運送に



「いいじ里山バス」 公共交通空白地有償運送 (岐阜県恵那市、飯地地域自治区運営委員会運行)



- 高原に集落が散在
- 人口700人弱。2016年度初めて出生ゼロに
- 幹線道路を通るのみで、高齢者のニーズに対応できない市営バスを置き換え(中学・高校通学便は残る)

- 2016年10月3日運行開始
- ドアツードアで、地区内輸送、地区入口(中学校前)のバス停との連絡の2つの役割
- 自治会が運営し、住民が運転
- 誰でも利用できる
- 運賃は域内100円、中学校まで300円、バスとの乗継割引あり

「ラスト・ワン・マイル」を田舎でカバーする手段として、公共交通空白地有償運送は今後増加するだろう
しかし、それはタクシー事業ができなくなっていることと裏腹

多治見市池田町「お買い物あいのりタクシー」 ～とりあえずここから始める手もある～



タクシー会社があって、やる気があるからこれでよい
やってくれるところがなければ自家用

- 路線バスが利用僅少のため廃止。駅にしか行けない路線だった。コミュニティバス導入も困難
- 自治会が住民アンケートの結果を踏まえ、タクシー会社の営業車(乗用許可)を利用した会員制の相乗り(乗合ではない)を開始。週1回1往復のみだが安価で商業施設に行ける
- 運賃との差額は自治会費で補てん。市も1/2補助
- ただし、利用が思ったほど出てこないのが難点

名古屋周辺で広まる、市町村がお膳立てした「地域参画型」公共交通



豊橋市川北地区
「スマイル号」
(16/01/13運行開始)

- ◆ 名張市: 地域バス「国津」04年9月、「錦生」08年4月、「蕨原」7月、「緑ヶ丘」09年4月、「美旗」12年4月
- ◆ 伊賀市: 「比叡」03年11月(09年4月有償化)、「神戸」18年7月
- ◆ 松阪市: コミュニティバス「黒部・東」06年7月、「機殿・朝見」08年7月、「飯高波瀬森」10年4月、「嬉野」11年8月、「三雲」12年10月
- ◆ 豊田市: 地域バス「高岡」00年9月、「水源東」保見」07年9月、「旭」10月、「藤岡」08年4月、「小原」09年4月
- ◆ 岐阜市: ぎふっこバス06年10月4路線、08年6月4路線、09年6月2路線、10年9月1路線、12年9月1路線、12年10月1路線、13年9月1路線、14年9月2路線、15年9月2路線、16年9月1路線
- ◆ 一宮市: 生活交通バス「萩原・大和」「千秋」07年11月
- ◆ 関市: 地域バス5地区で09年4月
- ◆ 岡崎市: 「下山」09年3月、「形埜」09年11月、「宮崎」09年12月、「豊富」10年3月
- ◆ 豊橋市: 地域生活バス・タクシー「東部」08年7月、「北部」10年10月、「前芝」「南部」13年10月、「川北」16年1月
- ◆ 津市: 「高松山」13年1月、「二俣」15年2月、「上佐田」15年12月

平成27年10月1日から運行開始!!

規制緩和により、次のサービスが実現できるようになりました!!

EV乗合タクシー(丹タク)の代行・輸送サービス

京丹後市 地方創生型 通称:丹タク

EV乗合タクシー

ご自宅の玄関先から病院、駅、スーパーへ、EV乗合タクシーに停車所はありませんので、対象地域内ならどこでも、安心・安全・快適に目的地までご案内します!

予約制

網野町全域 久美浜町全域 京丹後市全域 豊岡市内の市街地周辺

通院や買い物お出かけの際はお気軽にご利用ください!

運行日時 年中無休・予約制 (予約は、お電話または、専用アプリ) 午前8時30分～午後5時30分

運賃 お1人様 500円 (網野町内・久美浜町内) 小学生以上は、返還用の半額 (本記事では保護者の付添で無料) ※網野町・久美浜町を越えて乗車される場合は、在圏外乗車として別途追加料金が掛かります。 ※グループ予約あり ※乗車人数は10名以内となります。 ※乗車人数が10名を超えれば、別途乗車料金を追加いたします。

対象者 地域住民の皆様、観光客など

見たいはタクシー。でも許可はバス(乗用許可でなく乗合許可可区域運行、地域公共交通会議で協議)。それによって「ひと」「もの」「こと」の混載が可能に(ニーズ・目的から運行コンテンツを作る)

正解は1700通り(市町村ごと)どころか何万通り(地区別)もあるけれど・・・

- 「おでかけの足」は地域にとって重要で、それは利用者負担だけではとても確保できず、みんなで支えないとダメ、という基本認識に基づいて取り組む
- シーズありきはほぼ100%失敗する。特に「最先端」「全国初」には要注意
- みんな気付いていないけど、やってみたらありがたいと思える「潜在ニーズ」を見付け、あるものをうまく使って実現していくという道筋が大事
- そのとき、プロのサポートが絶対に必要。アマチュアでは手に負えない。なお、ニセのプロが全国で横行中
- いまの制度でもそこそこいろいろなことができる。できないと思っているとしたら勉強していないだけ
- 共助、すなわち「我が事」という意識の浸透が大事。だれかにしわよせする仕組みは続かない
- そのためにも、聖域や固定観念をつくらない。みんなでやる

加藤博和

検索

<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kato/Jkato.htm>

質問・相談等はE-Mailで

E-Mail: kato@genv.nagoya-u.ac.jp

facebook: [buskato](https://www.facebook.com/buskato)

"Think Globally, Act Locally"

交通・都市施策の環境負荷をライフサイクルアセスメントによって明らかにし、CO₂削減とQOL向上・費用低減を両立するソリューションを追求する一方、地域の現場でよりよい交通とまちをプロデュースする仕事にも取り組んでいます

事務局のついで、知り合おう、そしてこれまでの殻を破ろう!

くらしの足を みんなで考える 全国フォーラム < 2019 >

日時 2019年10月26日(土)・27日(日)

場所 東洋大学白山キャンパス (東京都世田谷区) 参加費2,500円(1日・当日参加) ※1日参加は別途申し込み(要費別)

10/18 - 申し込み受付開始 9/30 -

プログラムの詳細・参加申込は要項へ!

くらしの足を みんなで考える 全国フォーラム

詳しくは下記URLで <https://zenkokuforum.jimdo.com/>

- どなたでも参加できます。フラットな仲間づくり・情報交換の場です
- くらしの足概論「くらしの足からMaaSを捉えなおす」
 - ポスターセッション(取組紹介)
 - 懇親会
 - ショートスピーチ:国土交通省様
 - 基調討議「おでかけを豊かにする『のりしろづくり』のススメ」
 - オープンカンファレンス
 - グループディスカッション
 - 白熱討論「愉しくおでかけできる社会づくりのために破るべき殻とは?」